

Windomの解答速報 昭和大学(医)Ⅱ期 英語

【解答と配点】

問1 [10点(各2点×5)]

- (1) C (2) A (3) E (4) B (5) B

問2 [20点(各2点×10)]

- (1) E (2) B (3) E (4) C (5) E (6) C (7) E (8) B (9) E (10) E

問3 [15点(各1点×15)]

- (1) あ Should[or Suppose, Supposing]

い comments

- (2) う That

- (3) え being

- (4) お Upon

か straight

- (5) き worse

- (6) く senior

け by

- (7) こ Included

さ postage[or shipping]

- (8) し lifted

す off

- (9) せ you

そ didn't

問4 [10点(各2点×5)]

- (あ) C (い) E (う) C (え) D (お) B

問5 [45点]

- (1) (1) C (2) B (3) B [6点(各2点×3)]

(2) 群れのハト達が一貫して前を飛ぶリーダー達の方向転換を模倣していた為、飛行パターンには明確な序列関係があるという事。(58字) [15点]

- (3) D [4点]

- (4) Perhaps, leader [5点]

- (5) B, D, H [15点(各5点×3)]

【講評】

例年通りの問題構成であった。

第1問はアクセント・発音で5題出された。アクセント2題、発音3題である。発音に関しては、母音2題、子音1題という出題内容で、これまでの傾向を踏襲している。

第2問は語法・文法で、10題出された。イディオムが4題含まれていたが、例年5～6題は出されることを考えると、その比重は例年より低い。

第3問は空所補充形式の英作文で、15題出された。この形式は最近よく出題されるもので、実質的には英作文というよりは、語彙力や慣用表現をいかに知っているかにかかっている。

第4問は会話文で、5題出された。例年以上に簡単な問題であった。

第5問は読解文で、選択形式が5題、記述形式が2題であった。問2は群れで飛行するハトが方向転換をする際に約0.4秒かかるということから、「どの様な結論が導き出されたか」という設問文であるが、むしろ想定される解答文からすると、「その理由を書きなさい」とか、「どの様な事象を具体的に示すのか」とするべきであったであろう。

以上を総じて、全般的には標準的な問題であった。また、難易度的にはI期よりも簡単であった。と言うよりは、例年以上に難度が低い問題であった。